

## 水稻「コシヒカリ」食味値向上肥培管理技術の確立

### 要約

食味値向上を図るため、コシヒカリの施肥体系について検討した結果、施肥水準を4割下げ、基肥+出穂前40日の施肥により食味値は向上する結果が得られた。また、全量基肥体系に比べ登熟歩合が向上するが、収量が1割程度低下することが明らかとなった。

### ○ 展示のねらい

河内地域南部は米のタンパク質含有率が比較的高く、食味値の向上が課題となっている。また、試験実施地区は耕畜連携により稲わらと堆肥の交換が行われており、化学肥料の低減も期待できることから、収量と食味値を両立できる地域に適したコシヒカリの施肥体系を検討する。

<試験内容>

施肥時期	供試区	対照区
基 肥	窒素成分：1.0 kg/10 a (速効性肥料)	窒素成分：3.3kg/10a (速緩比1：3) 緩行性 LPSS100
追 肥	窒素成分：1.0 kg/10 a (速緩比1：1) 緩行性 LP40	無施用
総窒素 施用量	2.0kg/10 a	3.3kg/10 a

※ オガクズ牛ふん堆肥 1 t 施用 (2月) 土壌：黒ボク土、前作：水稻(稲わら搬出)  
 移植日：5月18日 出穂期：7月30日 成熟期：9月10日  
 栽植密度：14.6株/m<sup>2</sup> (畦間：30cm×株間：22.9cm)

### ○ 主な成果

<収量及び収量構成要素と食味値>

	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂 籾数	総籾数 (百/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	整玄米重 (kg/10 a)	屑米重 (kg/10 a)	食味 値	タンパ ク(%)
供試区	259	83.3	216	82.5	22.9	410	42.9	76	6.0
対照区	296	91.9	272	79.3	23.3	449	58.1	72	6.6

収量は8月の日照不足の影響もあり、供試区は10アール当たり410kgに留まり、対照区を40kg下回ったが、タンパク質含有率は6.0%と対照区に比べて0.6%下回り、食味値も高くなった。

### ○ 今後の方向性

穂数確保対策(栽植密度、基肥水準)を実施し、平年並みの日照時間での再検討。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315